生徒指導の4つの視点を生かして安心感を高めるための
働き掛けヒント集

このヒント集は，「生徒指導の4つの視点」を基に児童生徒の安心感を高めるための働き掛けを紹介するものです。ここに記載の内容は，あくまでも一例です。働き掛けで大事なことは「児童生徒理解」であり，個々に応じた適切な働き掛けを考えることが大切です。成果や変容はすぐには表れませんが，意義や目的を意識し，働き掛けを継続していくことが安心感の高まりにつながります。 4つの視点はそれぞれ密接に関わり合っているため，1つの視点に絞って働き掛けを行ったとしても様々な安心感の高まりが期待できます。

自己存在感の感受

共感的な人間関係の育成

自己決定の場の提供

安全・安心な風土の醸成

生徒指導の4つの視点を生かして

教師や仲間から学級の一員として認められている

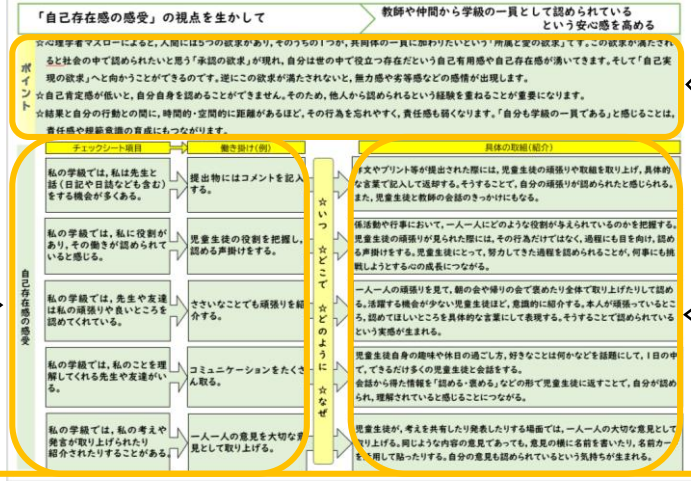
教師や仲間から理解され受け入れられている

自分の考え，選択，決定が尊重されている

ルールが守られ他者から傷つけられない

児童生徒の安心感を高める

視点ごとにそれぞれの働き掛けのヒントをまとめました



理解しておきたい「ポイント」を記載しています。

働き掛けの例や具体的な取組を紹介しています。

実践で活用しやすいように安心チェックシートの項目ごとに取組の例を紹介しています。

働き掛けの目的を踏まえ「いつ・どこで・どのように・なぜ」を基に具体的な取組を紹介しています。

「自己存在感の感受」の視点を生かして

教師や仲間から学級の一員として認められている という安心感を高める

ポイント

☆心理学者マズローによると，人間には5つの欲求があり，そのうちの1つが，共同体の一員に加わりたいという「所属と愛の欲求」です。この欲求が満たされると社会の中で認められたいと思う「承認の欲求」が現れ，自分は世の中で役立つ存在だという自己有用感や自己存在感が湧いてきます。そして「自己実現の欲求」へと向かうことができるのです。逆にこの欲求が満たされないと，無力感や劣等感などの感情が出現します。

☆自己肯定感が低いと，自分自身を認めることができません。そのため，他人から認められるという経験を重ねることが重要になります。

☆結果と自分の行動との間に，時間的・空間的に距離があるほど，その行為を忘れやすく，責任感も弱くなります。「自分も学級の一員である」と感じることは，責任感や規範意識の育成にもつながります。

自己存在感の感受

チェックシート項目	働き掛け（例）	☆いつ ☆どこで ☆どのように ☆なぜ	具体の取組（紹介）
私の学級では，私は先生と話（日記や日誌なども含む）をする機会が多くある。	提出物にはコメントを記入する。		作文やプリント等が提出された際には，児童生徒の頑張りや取組を取り上げ，具体的な言葉で記入して返却する。そうすることで，自分の頑張りが認められたと感じられる。また，児童生徒と教師の会話のきっかけにもなる。
私の学級では，私に役割があり，その働きが認められていると感じる。	児童生徒の役割を把握し，認める声掛けをする。		係活動や行事において，一人一人にどのような役割が与えられているのかを把握する。児童生徒の頑張りが見られた際には，その行為だけではなく，過程にも目を向け，認める声掛けをする。児童生徒にとって，努力してきた過程を認められることが，何事にも挑戦しようとする心の成長につながる。
私の学級では，先生や友達は私の頑張りや良いところを認めてくれている。	ささいなことでも頑張りを紹介する。		一人一人の頑張りを見て，朝の会や帰りの会で褒めたり全体で取り上げたりして認める。活躍する機会が少ない児童生徒ほど，意識的に紹介する。本人が頑張っているところ，認めてほしいところを具体的な言葉にして表現する。そうすることで認められているという実感が生まれる。
私の学級では，私のことを理解してくれる先生や友達がいる。	コミュニケーションをたくさん取る。		児童生徒自身の趣味や休日の過ごし方，好きなことは何かなどを話題にして，1日の中で，できるだけ多くの児童生徒と会話をする。 会話から得た情報を「認める・褒める」などの形で児童生徒に返すことで，自分が認められ，理解されていると感じることにつながる。
私の学級では，私の考えや発言が取り上げられたり紹介されたりすることがある。	一人一人の意見を大切な意見として取り上げる。		児童生徒が，考えを共有したり発表したりする場面では，一人一人の大切な意見として取り上げる。同じような内容の意見であっても，意見の横に名前を書いたり，名前カードを活用して貼ったりすることで，自分の意見も認められているという気持ちが生まれる。

「共感的な人間関係の育成」の視点を生かして

教師や仲間から理解され，受け入れられている
という安心感を高める

ポイント

☆児童生徒が，多様な他者を否定したり拒絶したりすることなく，相手の立場に立って考え，行動できるようになるために，まずは教師がそのような姿勢を率先して示し，模範となる必要があります。 児童生徒にとって教師の言動はモデルとなります。

☆児童生徒がお互いを，受容的・共感的・肯定的な態度で尊重し合えるようになるためには教師の働き掛けが大切です。

☆青年期には特有の自己中心性があり，特に13～15歳頃は他者から見られているという意識が過剰になり，自分本位に陥りやすくなります。この時期に多くの人と関わる体験を重ねたり，望ましい人間関係を育んだりすることで，自分の価値観を受け入れるとともに，他者の価値観も尊重できるようになります。そのためには教師の支援が必要です。

共感的な人間関係の育成

チェックシート項目	働き掛け（例）	☆いつ ☆どこで ☆どのように ☆なぜ	具体の取組（紹介）
私の学級では，先生や友達は私の話を最後まで聞いてくれる。	児童生徒の話を最後まで聞く。		児童生徒と話をするときには，教師は自分の作業を止め，言葉を遮ることなく最後まで話を聞く。その際，否定する言葉は使わないように心掛けることで，どのような考えでも話していいんだという気持ちが生まれる。
私の学級には，悩みや困りごとを相談できる先生や友達がいる。	個々の様子を見て声掛けをする。		児童生徒の実態に合わせて，教師からコミュニケーションを図る。教師が話し掛けることは，児童生徒にとって，教師と関わるチャンスを作ることにもなる。また話したくなるような雰囲気を作り，ささいなことでも話ができる関係づくりをする。
私の学級では，誰かの発言や行動を否定したり批判したりせずに尊重している。	お互いの考えを尊重する場面をつくる。		なぜそう思ったのか，どうしてそのような行動をしたのかを，相手の立場になって考える場を設定する。批判することはせず，自分だったらどうするかを伝え合い，お互いを知ることで，相手から理解され，受け入れられているという実感を持たせる。
私の学級では，みんなで協力して一つのことに取り組むことができる。	みんなで一つのことに取り組めるようにする。		行事等の前に，目標を決める場面を設定する。全員が発言する，誰の意見も否定しないなど，事前にルールを決め児童生徒が中心となって話し合う場面を設定する。目標達成に向かってお互いを補い合い協力することができるようにする。
私の学級では，誰かのユーモアのある発言に対し，学級が温かい笑いで包まれる雰囲気がある。	ユーモアのある発言に対し，温かい笑いで包まれる雰囲気づくりをする。		どのような発言（言葉）がユーモアがあると言えるかを児童生徒が理解し，チクチク言葉ではなく，ポカポカ言葉を使うような学級の雰囲気を作る。ロールプレイを体験させるなど，良好な関係づくりの大切さに気付かせる。

「自己決定の場の提供」の視点を生かして

**自分の考え，選択，決定が尊重されている
という安心感を高める**

ポイント

☆自己決定とは，単に「自分で決めさせる」ことではありません。児童生徒が「自分で決めたい」「自分で決められる」，そして「自分で決めた」と感じることです。

☆自己決定までの過程　1　自己決定の場と機会を設定します。
2　自己決定のために，個に応じて必要な材料を提供します。
3　児童生徒の決定を尊重します。その後の経過及び結果も見続け，必ず認めましょう。

（自己決定までの過程における コミュニケーションが大切です。）

☆自己決定を繰り返すことによってレジリエンスも身に付きます。（レジリエンス＝「失敗しても大丈夫，また頑張ろう」と思い，立ち直る力のこと）

☆自分本位な決定ではなく，相手（他者）のためにもなる行動を選択するような気付きを促しましょう。

自己決定の場の提供

チェックシート項目	働き掛け（例）		具体の取組（紹介）
私の学級では，自分（たち）で学習や生活の目標を決め，振り返りをしている。	目標設定をして，取組の評価をする場面を設定する。	☆いつ　☆どこで　☆どのように　☆なぜ	週初めの朝の会で，「学級の生活がより良くなるように」という視点で目標を立てる場面を作る。週終わりに班で振り返りを行い，全体で共有し，次週への意欲付けをする。
私の学級では，話合いなど自分たちが中心となって活動する場面が多くある。	自分たちでルールを作る場面を設定する。		学級活動で，学級のルールについて考える機会を設ける。 児童生徒の活動（話合い）中，教師は多くを語らず見守る。決まったことには各自が自分の行為に責任を持つよう指導していく。
私の学級では，自分で調べたり制作したりするときに，先生や友達からアドバイスをもらえる。	自分で調べたり，制作したりする際には，個々に適切なアドバイスをする。		調べたり，制作したりする場面では，必要な情報を事前に伝える。 一人で調べたり，考えたりする時間を，児童生徒の実態を考慮しながら，十分に確保する。作業しただけで終わらないように，制作過程や終了後に適切にアドバイスをする。自己評価や，その後の意欲につなげる。
私の学級では，私の考えを伝えたいと思える場面や機会がある。	考えるための目的や情報を提示する。		考えることが必要な場面では，活動が早く終わる児童生徒，時間を要する児童生徒を見据えて，その時間に行うことを事前に伝え，活動内容を明確にする。 単に「考えさせる」ではなく，「考えられる」手立てを講じることで，児童生徒が安心して活動できるように支援する。
私の学級では，自分一人で考える場面で，必要な情報が示されている。	自分の考えを伝えようと思えるような支援をする。		発表の場面では，最初から全体の前で発表するのではなく，個々の段階を考慮する。例えば，自分の考えを自分の言葉で伝えられるようなペア活動から行う。 また，失敗したり間違えたりしても，繰り返し自分の考えを伝えたいと思えるような励ましや支援を行う。

「安全・安心な風土の醸成」の視点を生かして

ルールが守られ，他者から傷つけられない
という安心感を高める

ポイント

☆学級の良好な雰囲気に影響を与えているのは，教師の受容的な態度よりも生活規律・学習規律の自発的な順守（教室内の秩序）です。

☆「どうしてこのルールがあるのか」という意味，目的，メリットを伝えることで児童生徒が納得して行動できるようになります。

☆「ルールを大切にすると，みんなが安心して快適に過ごすことができる」ということを伝え，体感させましょう。

☆明確なルールを示すと同時に，ルール違反の境界（ここからはアウトという線引き）を，誰もが理解している状態にすることが重要です。

☆小・中学生の規範意識には，家族や教師への「信頼感」を土台とした「社会的達成欲求」の発達が大きく影響しています。家族や教師から，支えられ，認められたと感じることで，自分の属する集団である学校や地域社会の規範を守ろうとします。

安全・安心な風土の醸成

チェックシート項目	働き掛け（例）		具体の取組（紹介）
私の学級では，係活動や清掃など，みんなが自分の役割に責任を持って取り組んでいる。	それぞれが役割を果たせば，学級で快適に過ごすことができると体感できる機会を設ける。	☆いつ ☆どこで ☆どのように ☆なぜ	朝の会で，班ごとに1日の役割の確認を行う。それぞれが役割を果たしたことで，どのような良い点があったのか，帰りの会で担任やクラスメイトから伝える機会を設ける。自分が役割を果たすことで，学級の活動が円滑に進んでいたことに，児童生徒が気付くことにつながる。
私の学級には，友達の間違いや失敗を冷やかしたり，からかったりしない雰囲気がある。	冷やかしやからかいを見逃さず，タイムリーな指導をする。		あらかじめ，冷やかしやからかいを許さないことを伝える。事前に伝えておくことで，その後の指導に一貫性が生まれるようにする。また，生徒の様子が分かるように，休み時間など，フロアや教室で見守る。 児童生徒同士の冷やかしやからかいを，教師が見逃さないことにつながるだけでなく児童生徒にとって，教師に見守られているという安心を感じることにもなる。
私の学級には，周りの迷惑になる言動をしてはいけない雰囲気がある。	周りに迷惑になる言動とはどのようなものか，理解できるような場面を設定する。		事前に，望ましい行動に関する具体的な指示やルールを明らかにしておく。 自分の行動の結果，必然的に起こる結末を体験させ，理解を促す。結果を予測した行動の選択ができるようにする。
私の学級では，みんなが活動の始まりと終わりの時間を守っている。	教師が模範を示す。		なぜ時間を守らなければならないのかについて事前に話しておく。その上で，教師が範を示し，時間に余裕を持って行動して活動場所で児童生徒を待つ。
私の学級では，人の心や体を傷つける言葉や行為を許さない雰囲気がある。	「人を傷つけてはいけない」というルールを徹底する。		児童生徒にあらかじめ指導する場面を伝えておく。 ルール違反が見られた場合はその場ですぐに指導し，「どうしたらよいのか」を児童生徒が考えられるように問い掛ける（場合によっては一緒に考える）。